

中学校国語科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
問一	2		3
問二	4		3
問三	1、4	全部合っているものだけを正答とする。	4
問四	4		6
問五	読み手の読書に関するこれまでの経験や現在の状況等によってテキストから読み取られるものは異なり、その意味で正しい読み方はないということ。(67字)	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	10
問六	筆者の述べる「自分を基準にして作品との距離が測れるようになる」とは、生徒が作品に表れているものの見方や考え方をそのまま受け入れるのではなく、自分の知識や経験と照らし合わせて、自分なりの理解を基に作品を対象化し、吟味したり検討したりしながら読み、自分のものの見方や考え方に対する作品に表れているものの見方や考え方の位置付けが分かるようになることを表していると考ええる。 そのことを踏まえ、国語科の指導においては、生徒が批判的な態度を常に抱きながら本を読み、読書感想文を批評として成立させることができるように、登場人物の行動や物語の展開の意味を考えさせたり、登場人物と自分との考え方の違いを確認させたりする。また、作品に表れているものの見方や考え方と自分の考えを比較させ、共通点や相違点を確認させたり、作品中で述べられている主張と根拠との関係は適切か、根拠は確かなものであるのかといった、内容の信頼性や妥当性を吟味しながら読ませる。このような指導を繰り返し行うことで、作品を対象化して、吟味したり検討したりしながら作品を批判的に読み、自分の中での作品の位置付けが分かるようにしていくことが考えられる。	問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。	20
問七	㉗ し	語として採点する。	各2×5
	㉘ 一致		
	㉙ かくとく		
	㉚ かいぎ		
	㉛ 革命		

56

中学校国語科採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点	
二	問一 3		3	
	問二 3		3	
	問三	ア 4		各 3 × 2
		イ 2		
	問四	A 渡るであろうになあ	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 6 × 2
		F どうして断り申し上げるだろうか、いや断り申し上げないだろう		
問五	鵲や紅葉の橋を渡ったり、渡し守のいる舟で渡ったりするなど、牽牛が天の河を渡る方法があるということ。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	8	
問六	たとえ事実とは異なった内容になったとしても、思ったり感じたりしたとおりに詠むのが「歌のならひ」である。【和歌Ⅰ】もそうした「歌のならひ」に沿った和歌の一首で、実際には天の河を渡って織女に逢うことができたが、あまりにも短い逢瀬で逢わなかったかのように感じられたため、天の河を渡り切れずに帰ったと詠まれた歌であるという解釈を示している。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	1 4	
三	問一 3		3	
	問二 2		3	
	問三 4		4	
	問四 2		4	
	問五	そなたでなければ、私はどうしてこのような言葉を聞くことができたであろうか、いやできなかったであろう。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	8
	問六	書物に述べられていたことを、太宗が目当たりにした煬帝の滅亡と結び付けることにより、太宗の語った君主の姿が、正当なものであることを太宗に実感をもって理解してもらおうとしたため。	問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。	1 4
四	生徒が合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができるようにするために、立場や考えの違いを認めつつ、納得できる結論を目指して、生徒それぞれが建設的な意見を述べながら話し合う学習を行わせることが重要であると考えられる。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	1 2	

中学校国語科採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
<p>五</p>	<p>この文章には、構成や展開、表現の仕方の工夫が随所に施されており、寺山修司の人柄やその死を悼む山田太一の気持ちが表現されたものになっている。</p> <p>「文章の構成や展開」については、冒頭部で寺山の死による喪失感の大きさと淋しさを、展開部で大学時代や終りの四カ月の思い出を、終末部で山田にとっての寺山の魅力と別れに際しての想いを述べるという構成となっている。展開部で山田が寺山と過ごした濃密な時間について描写することによって、冒頭部や終末部に述べられた山田の喪失感の大きさや淋しさを際立たせている。これによって、読者に、山田の、寺山の死を悼む思いの強さを想像させる効果があると言える。</p> <p>「表現の仕方」については、寺山の言動を具体的に描写しているという工夫が見られる。例えば、寺山と久しぶりに再会した場面では、体調の悪そうな寺山の様子を「同じ電車をおりた人々が、とっくにいなくなってから」「実にゆっくりゆっくり、手すりにつかまって」「ようやく改札口を出て」と描写している。また、体調が悪いにもかかわらず、楽しそうな寺山の様子を「本棚を見せろ、といい」「どの棚もどの棚も丁寧にたどって」「『なつかしいねえ』と声を高め」「ミシェル・フーコーを読んだか？ ジャック・ラカンはどうだ」と描写している。これらの具体的な言動の描写を通して、寺山が山田との再会を喜び、大学時代と同様に本をめぐるやり取りを楽しむ様子や、そのような寺山の様子に哀惜とでもいうような感情を覚えながら共に過ごす山田の様子を想像させ、二人の間にあった時間の濃密さを印象付け、読者に、二人の間にある強い関係性や、山田の寺山を失った喪失感の大きさを想像させる効果があると言える。</p> <p>このような文章の構成や展開、表現の仕方の工夫によって、この文章は、寺山修司の人柄を描き出し、その死によってもたらされた山田太一の喪失感の大きさや淋しさを色濃く表現したものであると言える。</p>	<p>問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。</p>	<p>50</p>